74 新破天荒

令和四年度版
創刊第 3 号

姫路南高校での初めての考査が終りました

五月十七日（火）から二十日（金）に一学期中間考査が行われました。七十四回生二百一名が各々の将来に向けて、第一歩を踏み出しました。

まだまだ多少の無理をすることが許されない社会環境の中で、学校生活に取り組まなければならないため、中間考査を受験する機会を存分に手にすることができなかった皆さんも、期末考査に向けてその悔しさを忘れずに、次に始まる学びを大切にして、期末考査で得た納得のいく評価で、中間考査の評価にも返るよう、繋いでほしいものです。

中学校の中間考査より日程の長い、高校初めての中間考査はどうでしたか。長い日程を効果的に利用できた人、長い日程にもてあそばれて気付けば夜、あるいは翌朝で冷や汗をかいた人、提出課題完成のための時間の使い方に満足してしまった人もいると思います。

一喜一憂は当たり前です。ただ、この一回で自分の能力を決めつけ、その立ち位置で姫路南高校での生活様式を作り上げることのないようにして下さい。

教員生活も、どんどん終焉を迎えようとしていますが、その中で出会った生徒の誰もが、順風満帆の三年間を過ごしてはいません。卒業時に、卒業後に成長を感じさせてくれる生徒ほど、壁にぶつかり、挫折を感じ、時には立ち止まり、大きなショックを感じるなどの経験をしています。

だから、新たに旅立ちを迎える場面や、再会した時に、「あの時は」と、話が弾むのかもしれません。

つまり、学校生活で、所謂

「ポール　トゥー　ウィン」

はないということです。成長を手にしてきた生徒は、壁（ひょっとしたら、本人は壁と思っていないかもしれませんが）を攻略することを楽しみます。人が困難に思うようなことを、悲壮感を持たず淡々と、あるいは嬉しそうに取り組む傾向があります。

逆に、どうしても目にしてしまう数字に振り回されてしまう人は、私たちが感じる「可能性」に自ら壁を設け、心の扉に鍵をかける傾向があります。

新しい集団となって、同じ時間を過ごして初めて得る結果です。その数値に敏感になるのは、容易に察しがつきます。ただ、

成果の一つ

であることに違いはありません。その一つの成果を、自分のすべてにするのではなく、その一つの成果を自分の経験値とすることができるかどうかです。

良くも悪くも誰もが、姫路南高校での第一歩は

前に向かって

スタートしました。その一歩の大きさに差があろうとも、後ろを向いて一歩目を出した人はいないはず。

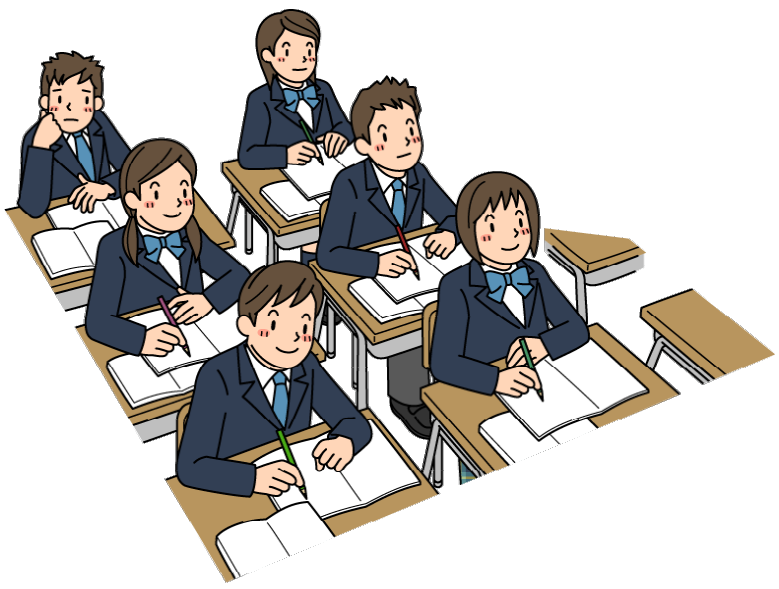
大切な

次の一歩

を、あなたはどう踏み出しますか。

自分の成長カーブ

を、しっかりイメージして行動してみましょう。



6月の予定

一	日（水）	歯科検診①
二	日（木）	尿再検査 眼科検診
七	日（火）	教育相談（ＣＣ）
八	日（水）	歯科検診②
九	日（木）	耳鼻科検診①
十	日（金）	教育実習終了
十六	日（木）	文化祭前日準備
十七	日（金）	文化祭
二十一	日（火）	教育相談（ＣＣ）
二十三	日（木）	耳鼻科検診②
二十五	日（土）	教員採用試験試験会場
三十	日（木）	期末考査① 七月六日（水）まで
七月八	日（金）	進研模試（予定） 学力向上事業により、平日実施

活躍の跡 西播大会入賞者

空手部

男子団体　形　第一位
男子団体　組手　第一位
男子個人　組手　第二位

今回、自分がこのような結果を残せたのは、たくさんの方々の支えがあってこそでした。

入学から一か月間、先輩方にはとてもお世話になりました。入学前の自分は、地元の道場へ通っていただけでした。それも週一日の練習です。

その環境から、入学を機に、毎日の部活動として練習することができるようになりました。はじめはやっぱり緊張しました。でも、徐々に先輩方とも打ち解けることができ、同じ一年生の仲間もできました。とても楽しいです。

仲間との支えの他にも、父からの支えもありました。父も経験者で、自分の動きを見て何度もアドバイスをしてくれました。父の支えなしでは、いまの自分は絶対に成り立っていないでしょう。父には本当に感謝しています。

今回は結果を残すことができましたが、もっと上を目指して練習しないと、次の大会では勝てないと思います。

なので、日々精進し、頑張りたいと思います。

（３組　船田勇志）

陸上競技部
女子七種競技　第一位

この度、陸上競技の西播大会の七種競技で優勝することができました。初めて取り組む競技だったので緊張しましたが、優勝することができて嬉しいです。

七種競技とは、一日目に１００ｍハードル、走高跳、砲丸投、２００ｍを、二日目に走幅跳び、やり投、８００ｍの七種目を行い、各種目の記録に与えられた点数を合計して総合点で競うという、特殊な競技です。一種目ごとに順位が入れ替わって、最後の種目が終るまで総得点がどうなるか分からないことや、各選手それぞれに得意種目、苦手種目があるので、私にはとても面白い競技です。

さて、試合前に私は、自分の全力を尽くし、後悔しないように、そして県大会に出場できるように頑張ろうと考え、試合に臨みました。中学校では、四種競技をしていたので、その経験も活かし、教わったことを意識して各々の競技に取り組むことができたので、良かったです。

県大会では、課題である走幅跳とやり投でしっかり記録を伸ばして、近畿大会への出場を目指したいです。

（２組　日坂美咲）

文化祭について

前述の行事予定にも示しましたが、来る六月十七日金曜日に、姫路南高等学校文化祭が開催されます。

長いコロナウィルス禍により、学校現場でもここ数年、様々な行事や生徒の活動機会が奪われていた中、少しずつ生徒の活動機会を取り戻しつつあります。保護者、地域等の皆様には、以前のような、自由で活気ある学校の姿を、まだまだすべてお見せすることは課題山積の状況ではありますが、生徒達に、姫路南高校の伝統を繋ぐ場面が取り戻されつつあることと、応援団である保護者の皆様にも、どのような形でそれらの時間を共有して頂くか、あらためて学校として発信・ご連絡させて頂きます。

行事直前での連絡になろうかと思いますが、ご容赦ください。本年に関しましては、現在のところ、一年生（七十四回生）は、校内でのクラス毎の展示作品発表が予定されています。本号がお手元に届くころには、各クラスで、何を、どこに展示するかが決まっているでしょう。ご家庭での話題の一つが提供できると思います。

ただ、密を避けるための方策は、学校の現場ではまだまだ必要です。主役は、やはり上級生です。ステージ発表の様子は、一年生は教室でリモート鑑賞となる予定です。従いまして、一年生の保護者に関しましても、本年につきましては学校への来場は、まだ叶わないとお考えください。一歩ずつ、着実に

以前の当たり前の日常
新しいスタイルの日常

保護者の皆様へ タブレット使用について

を確立しながら、姫路南高校での新たな「当たり前」の礎になりましょう。

本校ではゴールデンウィーク前までのタブレット配布が叶いました。収納ケース、画面保護フィルム、タッチペン等、注文されていた小物類も、届き次第随時配布をさせてもらい、無事完了しました。。

いくら「他校と比較」して早い部類ではあっても、学年当初から経過している日々を考えると、ご心配、ご迷惑をおかけしました。次年度以降に、これらの課題を伝え、学びの機会をより良いものにしていきたいと思います。

七十四回生については、校内での使用環境の整備、ＧＯＯＧＬＥ　ＣＬＡＳＳＲＯＯＭを通して、授業の課題のやり取りや、アンケートの回答等も始めております。

三月二十三日の合格者招集の際にも話がありましたように、家庭内でのＷｉ－Ｆｉ環境が使用可能であることが、ＧＯＯＧＬＥ　ＣＬＡＳＳＲＯＯＭの家庭での使用には不可欠であると確認されました。高価なタブレットの使用効率を少しでも上げるためにも、家庭内でのＷｉ－Ｆｉが可能な限り、使用できる環境となりますよう、ご協力をお願いします。

なお、家庭内でのＷｉ－Ｆｉ環境を整えることが困難な場合は、担任を通じて申し出をしてください。個別に対応させて頂きます。

生徒からの申し出あるある

・パスワードを忘れた

個人情報を印刷された、配布された紙に記入のうえ、紛失することのないように、あるいは、

イニシャルZ

データ保存の工夫
（セキュリティを
意識して）
をお願いします。

私達の時代では、イニシャルと言えば「Z」ではなくて、「D」でした。つまらないことですみません。

七十四回生の世代は、世間では「Z世代」と言うそうです。最近では、「Z」と言うイニシャルに、眉を潜めることも多いですが、そちらの方についてはただただ、平和な日が取り戻されることを祈るばかりです。

一方の「Z世代」についてですが、日本では「さとり世代」や「コロナ世代」と呼ばれるそうです。

この世代は、世界人口のおおよそ三分の一を占めており、今後は「消費者」として経済を動かす主役と見られているそうです。ただ、日本では少子高齢化が進んでおり、その割合は六分の一にも満たないようですが。

さて、このZ世代は、生まれたときからデジタル技術の発達の中で育ち、インターネットの世界や、オンラインの世界が当たり前になっています。私達昭和世代からすると、生徒達にとって「便利って何なのだろう」と思ってしまいます。

ドラえもんが常に側にいる、それって本当に便利で幸せなのかな？あれもこれも、二倍速の世界で得た情報は、本当に便利を感じるのか？情報の整理を本当にしているのか？

一度自分に問いかけてみて欲しい。

本当に幸せを感じてる？

便利を感じてる？

昭和の親父の、老婆心ながらであれば・・・。

何故こんな話をしたかというと、中間考査で監督をしていたときの様子や、教科提出用課題ノートのチェックから感じたことを、皆さんに伝える必要があると感じたからです。

一通り最後まで問題に当たった生徒の皆さんは、どれくらいの人が「見直し」という作業をしているのだろうかということ。それは、採点をしている時に、問題番号を間違え、書くべき欄に書いていない解答数の数の多さ(ケアレスミス)から感じました。

また、提出用ノートを見ていると、書いていることのほとんどが、正解の丸がつけられています。定期考査でどれだけの人が、自分の実力を知るための情報整理をして考査に臨んでいるのか、ノートは作業として提出するものとなっているのか、を感じました。

折角、能力を持っているのに、力を発揮するための準備をやるべきかなぁ。間違いをしたことが残るノートは、その生徒の人となりを見て取れるし、次にこんな話をしてやりたいなぁというものが、情報として手にできるのでとても面白いが、現代は、今まで以上に失敗を人には見せない傾向が強まっているようです。

今月の・・・の勧め

中間考査中の午後に総体の代休を頂いて、早く家に帰ってふと再放送のテレビ番組を見たときに、耳にしました。

知ってる人には懐かしい
知らない人には新しい

♫

こみ上げてくる涙を　何回拭いたら
伝えたい言葉は　届くだろう？
誰かや何かに怒っても　出口はないなら

何度でも何度でも何度でも　立ち上がり呼ぶよ
きみの名前　声が涸れるまで
悔しくて苦しくて
　がんばってもどうしようもない時も
きみを思い出すよ

一万回だめで　へとへとになっても
一万一回目は　何か変わるかもしれない

（中抜き）

一万回だめで　望みなくなっても
一万一回目は　来る
きみを呼ぶ声　力にしていくよ　何度も
明日がその一万一回目かもしれない・・・

♫

何のドラマの主題歌かというと、阪神淡路大震災の災難が徐々に薄れた頃に、まるで東北大震災での闘いを予期したようなドラマでもあったのですが。

ところで皆さんは、どの場面で自分の闘いを勝利しようというイメージは持てていますか？

「入学してようやく落ち着いたところなのに」と思うかもしれませんが、六月を迎えたいま、一年の六分の一が過ぎ、文化祭でこの一ヶ月もあっという間に終わり、今月末には次の考査。

その結果を受けて、文理選択を決定していかなければならない・・・。

人生百年時代を謳われながら、高校以降の時代に猶予を与えられない。だが、闘わねばならない。

まさに皆さんが括られている「Z世代」の新骨頂。適切な情報の吸い上げ、自分の目指す進路への効果的な情報分析、成果につなげる努力・・・。

今月は、なりたい自分を考える(決定ではない)、それを目指してみる小さな努力、つまり見直しを含めた、情報収集・情報整理を勧めます。

情報に溺れず、情報に上手く波乗りしながら、社会にどう自分の姿をイメージするか。真剣に考える時間を、必ず持ってもらいたいものです。

コロナウイルス禍とともに

七十四回生が本校に入学してきてから早や二か月。昼休みに、職員室から教室棟を見上げると、そこには黒板に向かって縦一列に座った生徒の姿が。「まだ授業？」と思ってしまうような状態で、黙食をして昼食を摂っています。また、昼休みに校舎内の巡回をして下さる先生方からは、整然とルールを守り、トイレ前で距離を取りながら粛々と順番を待つ姿も話題となり、これも新しい「当たり前」の生活様式として、生徒たちには浸透しているのかと感じます。

日々の話題、授業の愚痴、部活動の大会情報、週末練習前に昼ご飯を食べに行く約束などなど、私達の時代の当たり前が、今の状況では七十四回生の日常となり得るにはほど遠いと感じるたびに、

当たり前　　平々凡々

と思うことは、実はとても偉大であることに気付かされます。

さて、七十四回生の皆さんが社会人になったとき、保護者になったとき、自分の人生を振り返る余裕ができたときに、自分の高校時代をどう感じるのでしょうか。

自分の高校時代には、そんなことさえ考えることなく、過ぎ去る毎日を泳いでいる状態でしたが、立場や環境が変わると、皆さんもいつかそんなことを感じることができることを楽しみにしておいてください。

ところで、私にとっての「コロナウィルス」とは何なのだろうということを考えてみたくなりました。

コロナウイルスという言葉を耳にしたのは、令和元年十二月初めのニュースでした。前任校で二学年主任として修学旅行を控えていた私には、遠い中国でのニュースよりも、まずはインフルエンザとどう闘うかで頭が一杯でした。生徒には、インフルエンザ予防接種を受けることを強く促しましたが、実は私自身、小学校で接種して以来、一度も打ったことがなく、しかも生涯でインフルエンザにかかったのは一度だけということで、逆に接種する方がかかる不安を持ちそうで、接種する代わりに、今も飲み続けていますが、インフルエンザ予防となると言われた某製薬会社の「ボディメンテ」なるドリンクを飲むことで予防を図っておりました。余談ですが、そのせいで別の生活習慣病を悪化させたのでは？とも疑っておりますが。

そして、年が変わった令和二年一月初旬には、コロナの話が少しずつ目立ちつつもまだ相手の様子はぼんやりしたもので、修学旅行先での中国の方との接触などで、罹患したら嫌だなぁなどと、遠い世界の話でした。

ところが、修学旅行後のコロナ関連の話題は激変し、二月二十七日には当時の安倍首相の発表で、三月二日から春休みまで学校の活動が自粛となり、学年末考査さえ完了できない状態で、新学年を迎えることとなりました。が、これも始業式、入学式のみ行われ、そこから受験を控える三学年主任としての闘いが始まりました。担任の先生を含め、学年団の先生、学年に関わってくださった先生、学年を応援してくださった方、何よりもそんな中でも私たちを信頼してくださった保護者の皆様には感謝のしようがありません。

だからこそ

学校生活の時間が失われる

環境にはしたくないし、させたくない。

これが姫路南高等学校七十四回生学年主任を仰せつかった際に、絶対に守らなければいけない自分の責任であると、言い聞かせております。

兵庫県でも、感染者数がなかなか下げ止まりの傾向が続いています。一方で、いろんな縛りを解除してもよいのではないかという聞き心地のよい言葉を、話の根拠をぼやけさせた状態で、日々のニュースが流れても来ます。

行動制限解除は、どこかで誰かが英断をする必要があると思います。今はまだそのタイミングではないと思いますが、七十四回生の高校生活時代のうちには、恐らくそんなタイミングが訪れると信じています。だから、今はいまのルールに則って、闘いを続けていくべきだと言い続け、実践し続けていきたいと思います。

始まってもう三年
やり続けていることは

- 消毒以上に、外出後の手洗い、うがい、顔洗い
- 不織布マスク着用以上に、近距離での顔を向きあっての会話を避ける
  味気なくても、並列での正面向かっての会話
- 「ボディメンテ」摂取
- 授業中等の換気（季節に限らず）
- 毎朝の体温チェック
- 睡眠時間の確保
  特別というよりも、ごく当たり前のことに拘りを持って過ごした三年でした。

でも、令和二年度三学年の生徒には、見えない敵のために、最後の総体・総文を経験させてやることができなかった悔いはなくなることはありません。

闘えずして、全員が敗者になるような気持ちには、残された教員生活の中ではご容赦願いたい。神様に祈るほかないのですが、祈る前に、やるべきことはしておかないといけませんよね。

その令和二年度三年生の生徒たちですが、五月末に、分散・時短ではありますが、登校を許された日の顔は、数多く印象に残っています。「こうしてやりたかった」と言えばきりがないですが、厳しい環境下で、自分の可能性にチャレンジしてくれました。この生徒たちは、加えて大学入試改革に当たる年でした。不安を抱えても弱気にならず、時々泣き言を言いながら、自分の可能性を生かすために、推薦で私学を受かっても、その大学で特待生となるために学びを止めず、同じ大学の一般入試で高得点を得る努力をしたり、国公立前期から北海道や鹿児島と、より高い自分の合格の可能性に拘って、合格を勝ち取ってくれました。将来ダンサーを目指すと、既に専門学校に進学が決まっていた生徒も、「この学校で頑張った証を手に入れたい」と頑張り続け、見事に国公立大学前期試験合格証を手にし、手にした自信を次の頑張りに生かして、ときどき地方のＦＭ局で専門学校の仲間とともに、声を届けてくれています。皆の頑張りのご褒美の一つに、教員人生初の、現役東京大学生にも出会わせてもらいました。

その瞬間は良い結果ばかりではなく、例年にない浪人生も出ましたが、裏を返せば妥協したくない、

闘い途中で終わりたくない生徒に恵まれたかと思います。令和四年の冬から春にかけて、すべての者が自分の目指す道の上に乗って進んでくれていることに感謝するばかりです。

姫路南高校でのＷｉｔｈコロナ。どんな出会いが待っているやら。七十四回生を中心に、日々楽しませてもらいます。